2017年度　シラバス情報表示画面　　科目コード：41413　単位数：4

科目名	会計学	科目責任者	前田　清隆
課題と試験担当教員	前田　清隆		
履修方法	T　テキスト学習		
ナンバリング	CECON333		

■科目概要

現在、各主要国の企業会計基準は国際的に収れんされ、ほとんど大差なくなっています。会計学では、わが国の最新の企業会計制度を体系的に学習します。

テキストを読むだけでは理解しにくい個所について、簡単な計算例題も示してありますので自分で計算してから本文の理解に努めてください。

■到達目標

テキスト学習を通じて、簿記原理で学習した企業会計の技術が実践的、論理的にどのように実行され、どのような体系になっているかを理解できます。さらに有価証券報告書、決算短信、会社四季報など、企業会計の専門情報を理解することができます。

■科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
第１章 会計と会計学	企業会計の意味、目的、分類を学習し、さらに会計学が何のための学問かも理解します。
第２章 会計の計算原理と財務諸表	企業会計の計算原理である複式簿記により、財務諸表の作成までの流れを要約して学習し、現行の５種類の財務諸表の相互関係を理解します。
第３章 会計公準と会計基準	企業会計の基本的前提または仮定を会計公準と呼びます。一般に認められている３つを学習し、その上部構造である会計基準の本質を理解します。
第３章 会計公準と会計基準	会計基準の一つである『企業会計原則』に定められた７つの一般原則と注解に示された重要性の原則を学習し、それらの相互関係を理解することにより、会計基準の骨組みが理解できます。
第４章 貸借対照表	貸借対照表の意義、作成方法、表示ルールなどを学習します。
第５章 資産の会計	資産の意義、分類、評価を学習します。さらに流動資産の貸倒引当金の計算方法と棚卸資産の評価を学習します。
第５章 資産の会計	有形固定資産の減価償却を中心に学習します。近年、残存価額を１円（実質的には０円）に変更しましたので、定率法が複雑になっています。
第５章 資産の会計	無形固定資産、投資その他の資産、繰延資産を学習します。特にソフトウエア、のれんなどを中心に学習します。
第６章 負債の会計	負債の意義、分類、評価を学習します。さらに類似概念の比較により理解が深まります。
第６章 負債の会計	固定負債の中の社債とリース債務を中心に学習します。
第６章 負債の会計	引当金の意義、要件、目的、分類を学習し、特に複雑である退職給付引当金を深く理解するようにします。

学習範囲 該当する章など	学習内容
第７章 純資産の会計	純資産＝資産－負債、と定義されますので、純資産には株主資本以外の項目が混在しています。 まず、株主資本の意義、資本金と資本剰余金を中心に学習します。
第７章 純資産の会計	利益剰余金を学習し、剰余金の配当可能額の計算の問題にも及びます。
第７章 純資産の会計	株主資本の控除項目である自己株式、その他項目である評価・換算差額等を学習します。
第８章 株主資本等変動計算書	株主資本等変動計算書は、簡単に言えば 株主資本等の期中変動明細です。その構造、作成方法を学習します。
第９章 損益計算書	損益計算書の意義、作成方法、表示ルールを中心に学習します。
第１０章 収益と費用の会計	収益・費用の種類と認識・測定の基準を学習します。特に実現主義、発生主義、費用収益対応の原則、費用配分の原則などを関連させて理解するようにします。また一般の実現主義の適用を理解します。
第１０章 収益と費用の会計	さまざまな形態の収益について、実現主義を適用する際の工夫や、実現主義の例外として収益に発生主義や現金主義を適用する例を学習します。
第１０章 収益と費用の会計	代表的なデリバティブ（金融派生商品）取引である、先物取引、先渡取引、オプション取引、スワップ取引の例を学習します。また消費税の会計を、外税方式と内税方式で比較しながら理解します。
第１０章 収益と費用の会計	法人税等の税効果会計を学習します。主に企業会計上と税務上の取引の認識のズレにより生ずる影響を合理的に処理する方法が税効果会計です。
第１１章 包括利益計算書	損益計算書の末尾の当期純利益の延長線上にこの計算書が位置付けられました。その意義、計算構造などを学習します。
第１２章 キャッシュ・フロー計算書	キャッシュ・フロー計算書という資金計算書が制度化されています。その目的と構造を学習します。
第１２章 キャッシュ・フロー計算書	営業活動によるキャッシュ・フローの区分の記入方法に直接法と間接法があり、これらを比較することにより、この計算書の本質の理解が深まる。
第１３章 外貨建取引等の会計	外貨建取引をした際に外貨額を円額に換算する方法、さらに外貨建資産、負債が貸借対照表に含まれている場合に、どのように換算し直すかを学習します。
第１３章 外貨建取引等の会計	わが国の本社、親会社が外国にある（在外）支店、子会社などを合算するための換算方法を学習します。単なる方法ではなく、その基底に、本国主義、現地主義という考え方があることを理解します。
第１４章 連結財務諸表	連結財務諸表の意義、目的、一般基準を学習します。特に連結の範囲を重視します。さらに資本連結、連結会社間の債権・債務、収益・費用、未実現利益の消去を学習します。
第１４章 連結財務諸表	非連結子会社、関連会社に適用される持分法について学習し、連結財務諸表の表示ルールも学習します。、
第１５章 四半期財務諸表	財務諸表利用者のタイムリーな情報ニーズに応えるため、年度の第１、第２、第３の各四半期（３カ月間）の財務諸表が制度化されています。その目的と作成上の簡便法などを学習します。
第１６章 会計上の変更と誤謬の訂正	最新トピックの一つとして、過去の財務諸表を修正再表示することが制度化されました。会計上の変更と誤謬の訂正を合わせてパターン別にどのように対応するかを学習します。

■学習方法・評価

種別	評価基準
試験	試験が近づいたらテキストの試験範囲を何回も読んで理解し、想定問題を5～10問程度作成して、あらかじめ自分で解答を作成し、何回も見直してから試験に臨むこと。 そのような学習がなされているか、どの程度理解されているか、考えがまとまっているか、などを考慮して評価します。

種別	評価基準
レポート	レポート課題に関連する個所をテキストで学習し、レポート用紙にまとめます。必ず、推敲してください。 　課題の題意に沿った解答になっているか、どの程度理解できているか、論理的か、などを考慮して評価します。

■評価方法

○科目試験：70%
○レポート：30%

■教科書

書名：会計学改訂版
著者名：前田清隆
出版社名：創大通信教育部
出版年：平25.3
版：改訂版
刷：
ISBN：978-4-86302-058-0

■参考書

特に使いません。

■履修上のアドバイス

簿記原理の単位を修得したこと。

■自習時間

レポート課題１題につき２０時間、科目試験のため２０時間の自習を必要とします。

■担当者のプロフィール

１９５２年、兵庫県生まれ。
１９７５年、創価大学経済学部卒業。
１９７５年、外資系公認会計士事務所
１９８３年、創価大学通信教育部非常勤講師。
１９８５年、創価女子短期大学経営科専任講師
１９９１年、創価大学経営学部助教授
１９９９年、創価大学経営学部教授